

平成29年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現									
評価項目		評価の具体項		年度当初 目標(年度末の目指す姿)		目標達成のための方策		経過・達成状況		評価結果 3 月 (最終評価)		改善方策			
1	学力の向上	①	【授業改革】 ・各科・教科によるALを用いた公開授業の実施 ・学校評価アンケートによる生徒の授業満足度は概ね良好(75%) 【学力の育成】 ・基礎力診断テストについては基礎力不足層(Dゾーン)が全学年ともに約45%を占有、基礎学力の定着に課題 ・全国工業高校校長会主催標準テストについては成績向上に課題 【学習環境の整備】 ・教室整備・教室美化は概ね良好 ・授業前の着席と挨拶は概ね良好	【授業改革】 ・ALを実践する職員数の増加 ・進路を切り開く主体的な学びの実践 ・ICTを活用した分かりやすい授業づくり ・80%以上の生徒が授業に満足と回答 ・ICT環境の整備 【学力の育成】 ・進研模試において、1・2年生3教科SS48以上、3年生5教科SS46以上の生徒が各学年で10名以上(理数工学科) ・基礎力養成に向けた放課後補習及び個別指導を、各科・各教科で実施 ・基礎力診断テストにおける、基礎力不足層(Dゾーン)の減少(全体の40%) ・専門教育に対応する数学力の定着 【学習環境の整備】 ・「5S・あさひ」を励行し、落ち着いた学習環境づくりを率先	【授業改革】 ・ALの理解を深め、実践につながる研修会を年2回実施 ・他校で開催される学習理論研修への参加を勧奨 ・図書館のWi-Fi環境の整備、タブレット端末の活用と研修会の実施 ・授業評価アンケート結果に基づく授業改善の実施 【学力の育成】 ・進路補習の計画的実施 ・基礎力養成に向けた放課後補習及び個別指導を、各科・各教科で実施 【学習環境の整備】 ・教室美化、授業準備と挨拶の徹底	【授業改革】 ①タブレット端末活用研修会の実施(7月)、学力向上研修会の実施(10月) ②一人一公開授業を実施(実施率67%) ③他校でのALの公開授業の案内を掲示・連絡によって教職員に勧奨し、参加人数延べ17名 ④授業アンケートを各科で集約し、それに基づいた改善方策を協議 ⑤学校評価アンケートにおける生徒の授業満足度は、74.7% 【学力の育成】 ①進研模試における理数工学科のSS数値目標は未達成 ②基礎力診断テスト(12月実施)のDゾーン(基礎力不足層)の生徒の割合は、49%(工業科1, 2年) ③放課後の進路補習を計画しており実施 ④各科で放課後補習や個別指導を適宜実施、基礎力定着の推進(1年生は夏休みに1週間の勉強会を実施等)	C	【授業改革】 ①学力向上研修会の充実 ②一人一公開授業の充実 ③他校での公開授業の案内・連絡を行い、教職員に勧奨 ④授業アンケートに基づく改善方策を継続して実施 【学力の育成】 ①進学のための補習の充実 ②基礎学力の向上・定着のための補習の充実 【学習環境の整備】 5Sあさひの徹底、教室整備と授業規律の更なる向上	②	主体的な学習態度と実践力の育成	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間を含めた全学習時間の増加が課題 (自宅学習時間:理数工学科141分、工業学科89分) ・教科書やノートなど、教材の授業前準備に課題 ・課題提出等の期限厳守に課題 ・生徒の進路目標の早期設定に課題	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・自宅学習時間の増加による主体的な学習態度の育成 (自宅学習時間:理数工学科150分、工業学科90分) ・具体的進路目標の設定による進路意識の向上 ・進路を意識した座学と実習の効果的な授業展開	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ・家庭での情報端末の利用を減らし、自宅学習時間を確保 ・週末課題等の定期的且つ適度な量の課題提示 ・学びの延長と進路実現のための資格検定受験・取得の推奨 ・継続的な個別面談による進路意識の向上	C	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ①自宅学習調査の結果に基づいた各生徒への意欲喚起 ②継続して各科で適量の課題の適宜提示 ③引き続き、各科・各教科による資格・検定の受験の推奨、受験者に補習の実施 ④面接の推進と継続による生徒の学校生活と学習状況の把握
		①	【人権教育・性教育】 ・WYSH教育公開LHRを1年生で実施 ・企業見学LHRを全学年で実施、他者の人権を尊重する態度の育成に課題 ・特別支援を必要とする生徒の増加、支援方法に課題 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・職員研修で全職員に周知、クラス目標を設定 ・クラスづくり・LHR・面談等に結果を活用するも、生徒自身の自己理解に課題 ・いじめ問題に早期に対応、各教科でも人権教育を推進 ・生徒が相談しやすい体制を整備しているが、悩みを抱えている生徒は少なくない理解 【指導力向上の職員研修】 ・6割弱の職員が人権教育に関する校外研修「一人一研修」に取り組んだが、LHR等への研修成果の還元課題 ・情報提供は速やかに実施	【人権教育・性教育】 ・人権意識が高揚し、他者の人権や存在を尊重できる生徒の増加 ・生徒の実態に合った支援方法の確立 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・自己理解が出来て、集団規律が順守できる生徒の増加 ・いじめが無く、学校生活を安心して送れる生徒の増加 ・悩みが相談しやすい雰囲気や確立と、勉強が楽しいと思える生徒の増加 【指導力向上の職員研修】 ・一人一研修の参加率を9割以上 ・研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性教育】 ・人権教育LHR・性教育LHRの充実 ・WYSH教育LHRを1年生に実施 ・特別支援教育支援員との連携 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ・ハイパー・QUを分析し、生徒理解とクラス運営に活用 ・いじめアンケート等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等、関係分掌と情報を共有 ・教職員や外部関係機関との連携を強化、充実 【指導力向上の職員研修】 ・研修会や講演会の情報をこまめに情報発信し研修会への参加を促進し、参加資料を共有化 ・人権教育LHRの指導案の充実	【人権教育・性教育】 ①人権教育LHRの事前研修・事後研修の実施 ②公開人権教育LHR&公開WYSH教育LHRの実施 ③特別支援教育支援員と連携し、支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を実施 ④校内人権教育研修会(職員向け)を実施 ⑤人権問題講演会を実施 ⑥性教育LHRの実施 ⑦人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で実施 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ①Hyper-QUアンケートと、その活用にに関する職員研修会を実施 ②いじめ等に関するアンケートを実施し、問題の早期発見・対応に努め、関係職員と連携し、適切に対応 ③ソーシャルスキルLHRを実施 ④特別支援教育職員研修会を実施 ⑤特別支援計画書を作成 【指導力向上の職員研修】 ①研修会や講演会の情報をこまめに情報発信し研修会への参加を促進し、参加資料を共有化 ②校外の人権教育関係の研修への参加率 36人/68人(52.9%) ③人権教育LHRの指導案の充実	B	【人権教育・性教育】 ①人権教育LHRに向けての事前研修・事後研修の充実 ②人権教育や特別支援の視点に立ち、教室環境の整備を職員全体で継続実施 ③性教育講演会やLHRの充実 【ハイパー・QU、いじめアンケート等の活用】 ①Hyper-QUの活用促進 ②支援を要する生徒への面談を実施し、実態に合った支援を継続実施 ③特別支援計画書の周知 【指導力向上の職員研修】 ①校外の人権教育関係の研修への参加呼びかけ(スケジューラー、個人案内等) ②人権教育LHRの指導案のさらなる充実							
2	豊かな人間性の育成	②	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」の考えは生徒・職員に浸透したが、生徒の主体的な取り組みに課題 ・挨拶は改善傾向にあるが、自分から挨拶できる生徒の割合は低調 ・学校は落ちてきているものの、ルール・マナーを守る規範意識の更なる向上に課題 ・頭髮検査で各回不合格となる生徒が全校で平均25.4名 ・正しい制服の着こなしが不徹底 【ボランティア活動】 ・活動が活発化しており、その流れの継承が必須 (平成28年度実績:とっとりサイエンスワールドボランティア52名、テクノボランティア26名、若桜鉄道SI整備ボランティア9名、献血街頭キャンペーン7名、ボランティア体験事業6名等) 【部活動、生徒会活動】 ・生徒会役員は各種活動に参加しており、その活動を各クラスに拡大することに課題 (平成28年度実績:高校生マナーアップさわやか運動、等) ・平成28年度部活動実績:中国大会出場者数132人(平成27年度より16人増加) 【環境改善】 ・TEAS活動の目標はクリア、更に現状に合った目標を設定し、活動を継続 【安全教育】 ・昨年度、登下校時の自転車による事故が5件あり、交通ルール・マナーの遵守に課題 ・SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等の取り扱いに課題 ・携帯電話とスマートフォンの「校地内での使用禁止」は概ね定着	【基本的生活習慣の確立】 ・「5S」、「あさひ」に主体的に取り組める生徒の増加 ・いっでもどこでも誰にでも自分から挨拶できる生徒が8割 ・規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ・頭髮検査の実施と事後指導の徹底 ・問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の参加者、昨年度比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ・各クラス役員の活動と生徒会活動の活性化 ・部活動において、平成28年度の中国大会出場者数の維持 【環境改善】 ・廃棄物は2014年度比10%減、電力消費は2010年度比13%減 【安全教育】 ・交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得 ・登下校時の無事故 ・規範意識の向上とルール・マナーの実践力の向上	【基本的生活習慣の確立】 ①「5S・あさひの日」の継続 ②生徒・職員によるあいさつ運動の推進により、自ら挨拶する生徒が増加 ③日常的頭髮・服装指導の実施により、不備の生徒は減少 ④頭髮検査の実施と事後指導の徹底が学年によりばらつきがあり ⑤問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施により、問題行動の減少傾向にあるが、SNS等の問題が課題 ⑥空箱が発生、教室の施設とともに貴重品の管理の徹底 ⑦無許可自転車、無断駐自転車等の見回りにより減少、自転車駐輪マナーも向上 ⑧遅刻する生徒が例年より多数(17%増加) 【ボランティア活動】 ・新しい分野への参加、ボランティア活動参加者数は昨年度比10%増の目標は未達成 【部活動、生徒会活動】 ・部活動では昨年度とほぼ同程度の数の選手が中国大会や全国大会に出場 ・生徒会活動では月2回の朝のあいさつ運動、募金活動等を実施	【基本的生活習慣の確立】 ①「5S・あさひの日」を継続、教室環境の整備 ②自ら挨拶できる生徒が8割の達成に向けて、自ら挨拶する生徒が増加 ③日常的頭髮・服装指導の実施により、不備の生徒は減少 ④頭髮検査の実施と事後指導の徹底が学年によりばらつきがあり ⑤問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施により、問題行動の減少傾向にあるが、SNS等の問題が課題 ⑥空箱が発生、教室の施設とともに貴重品の管理の徹底 ⑦無許可自転車、無断駐自転車等の見回りにより減少、自転車駐輪マナーも向上 ⑧遅刻する生徒が例年より多数(17%増加) 【ボランティア活動】 ・新しい分野への参加、ボランティア活動参加者数は昨年度比10%増の目標は未達成 【部活動、生徒会活動】 ・部活動では昨年度とほぼ同程度の数の選手が中国大会や全国大会に出場 ・生徒会活動では月2回の朝のあいさつ運動、募金活動等を実施	B	【基本的生活習慣の確立】 ①「5S・あさひの日」を継続し、敷地内美化の拡大 ②自ら挨拶できる生徒が8割の達成に向けて更なる挨拶の徹底 ③頭髮・服装指導の一元化(体育館での実施等) ④生徒指導方針の徹底 ⑤遅刻カードの変更と事後指導の徹底 【ボランティア活動】 ・ボランティア活動の情報発信、奨励を引き続き実施 【部活動、生徒会活動】 ・関係分掌・教科等と連携し、より多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加できるように支援 【環境改善】 ・現在は目標を達成しているため、今の活動を継続 【安全教育】 ①全職員による朝の交通指導の継続 ②各種安全教室のより効果的な実施にむけての検討							
		①	【人材育成】 ・鳥工版デュアルシステムを3企業で実施 ・企業見学会を工業関連企業21社・学校関係2校・公共施設4箇所で行った ・インターンシップでは全体の事前説明会、科別説明会を実施しルール・マナーの指導の徹底 ・実習後の測定機器、実習室等の整理・整頓・清掃は各科とも定着 ・資格試験対策にとも映像教材を活用、電子組立は前期合格率70% ・中国地区高校生生接技術競技会へ初出場 ・高校生ものづくりコンテスト県予選を通過、3部門で来年度の中国大会への出場権を獲得 ・電子回路組立部門では中国地区大会を制し、全国大会へ出場及び、県大会連覇、今年度の中国大会、若年者ものづくり大会の出場権を獲得 ・資格・検定ガイドブックを4月中旬に配布 ・多くの科において、早期・放課後に資格補習を実施し、一人一資格取得は概ね達成 ・測量士補合格者7名は過去最高 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削が不十分 ・提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導の充実	【人材育成】 ・生徒の勤労観、職業観の育成 ・「5S」の定着 ・生徒の専門的な知識や技術の向上 ・卒業までに一人一資格以上を取得 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ・レポートの内容と書き方の向上 ・レポートなど提出期限の遵守	【人材育成】 ①鳥工版デュアルシステムは7名参加。企業見学会、インターンシップ等を体験、概ね達成 ②資格取得や技能検定も概ね良好 ③SHR等を通して補習、各種大会への積極的参加の奨励 ④機械科では高校生ものづくりコンテスト(旋盤作業部門)中国地区大会出場 中国地区高校生生接技術競技会出場 ⑤制覇・情報科では3級技能検定電子機器組立てに前期14名中10名合格で71%の合格率 高校生ものづくりコンテスト・レゴマインド・スマートロボットの大会出場、ものづくりコンテストでは中国地区大会準優勝 若年者ものづくり競技大会に出場し、職業能力開発総合大学校長特別賞を受賞 ⑥電気科では放課後や長期休業中に資格取得・基礎学力向上補習の実施、資格・検定を積極的奨励 高校生ものづくりコンテスト(電気工事部門)中国地区大会出場 ⑦建設工学科では測量士補に3名が合格、一方高校生ものづくりコンテスト(測量部門)では、中国大会へ出場 ジュニアマイスター特別賞1名が受賞 【「工業技術基礎」(共通実習)の充実】 ①レポート内容への赤ペン指導やコメント記入などの添削を実施 ②提出期限の前日確認指示はできていないが、未提出者への提出指導を充実	【人材育成】 ①企業との連携を強化し企業見学会等の事業を積極的に実施 ②アルバイト就業事業の意義を含めて生徒へ紹介 ③継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ①進路希望調査を行い、懇談会で保護者とともに生徒の進路を検討、再確認 ②「進路の手引き」を各学年ごとに刷新し、進路LHRを展開 ③休休間に「企業・学校説明会」を実施し、企業等12社、学校2校来校し、生徒が直接企業や学校と話しをする機会を設定 ④進路行事等の資料をポートフォリオに綴じ、進路を考える上での資料を作成 ⑤理数工学科においては「理数工学Ⅰ」「理数工学探究Ⅰ」への取り組み及び高大交流事業・大学訪問を実施 ⑥進路補習を計画しており実施 ⑦10人面接を実施し、就職希望者は94%の生徒が10人終えて受験。 ⑧就職選考試験の1回目合格率は目標の90%以上を達成(91%) ⑨国公立大学に8名合格 ⑩工業科2年生の就職希望者全員を対象に、キャリアアドバイザーとの面談を実施	C	【人材育成】 ①資格、検定取得が就職・進学に大きなプラスになることを認識させ、資格・検定の受験の促進 ②技能検定、高校生ものづくりコンテスト大会への参加の啓発指導の継続 ③資格取得実績に伴う効果的な学習計画の立案と指導・支援の実施 ④資格データベースの適切な入力と活用 【職業意識の育成】 ①企業との連携を強化し企業見学等の事業を積極的に実施 ②アルバイト就業事業の意義を含めて生徒へ紹介 ③継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ①進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内、保護者とともに生徒の進路の検討 ②校内進路HPで随時、進路選択への参考となる情報の提供 ③ポートフォリオの活用、進路を考える上での資料の作成 ④理数工学科においては研修旅行で県外大学の訪問、進学意欲の醸成 ⑤進路補習を継続実施 ⑥就職内定先の企業から課題をいただき生徒に取り組ませる。 ⑦工業科2年生は、3学期にキャリアアドバイザーとの面談を実施し、進路決定への取り組みが円滑に行えるよう支援							
3	キャリア教育の充実と進路実現	②	【職業意識の育成】 ・インターンシップ、企業見学、応募前見学の実施 ・社会人講師を招いた授業実施 ・進路LHRの実施 ・外部講師を招いた就職ガイダンス等の進路行事を実施 【進路指導の徹底】 ・進路希望調査を1、2年生は3回、3年生は2回実施し、結果活用 ・理数工学科において、高大交流事業・大学訪問を実施 ・進路補習、個別指導、作文指導、サマーサイエンスセミナーを実施し、学力向上に努力 ・2年生に面接ガイダンス、希望者に企業見学を実施 ・個別進路面談を2年生の3学期から開始 ・10人面接の実施時期を早め、各科の面接指導、担任面談がより充実 ・理数工学科3年生の進路検討会を7月・11月・1月に実施 ・国公立大学への進学は現役4名、浪人4名の計8名 ・就職の一回目選考試験合格率は92%(平成27年度82.2%)で、前年度以上の結果	【職業意識の育成】 ・地域や企業と連携した活動及び校内外の進路行事等を通じ、生徒の職業観、勤労意識の育成 【進路指導の徹底】 ・キャリア教育の視点に立ち、進路目標を早い段階で定め、目標に向けた日々の取組による生徒の学力及びコミュニケーション能力の向上 ・進路は10名以上が国公立大学に合格 ・就職の一回目の選考試験合格率90%以上	【職業意識の育成】 ①インターンシップ、企業見学、応募前職場見学会、社会人講師による授業等を実施 ②インターンシップでは企業との事後協議会を開催 ③校内独自の企業見学会に加え鳥取市主催の見学会に参加 ④アルバイト就業事業に延べ13名が参加 ⑤資格取得を奨励 【進路指導の徹底】 ①進路希望調査を行い、懇談会で保護者とともに生徒の進路を検討、再確認 ②「進路の手引き」を各学年ごとに刷新し、進路LHRを展開 ③休休間に「企業・学校説明会」を実施し、企業等12社、学校2校来校し、生徒が直接企業や学校と話しをする機会を設定 ④進路行事等の資料をポートフォリオに綴じ、進路を考える上での資料を作成 ⑤理数工学科においては「理数工学Ⅰ」「理数工学探究Ⅰ」への取り組み及び高大交流事業・大学訪問を実施 ⑥進路補習を計画しており実施 ⑦10人面接を実施し、就職希望者は94%の生徒が10人終えて受験。 ⑧就職選考試験の1回目合格率は目標の90%以上を達成(91%) ⑨国公立大学に8名合格 ⑩工業科2年生の就職希望者全員を対象に、キャリアアドバイザーとの面談を実施	【職業意識の育成】 ①企業との連携を強化し企業見学会等の事業を積極的に実施 ②アルバイト就業事業の意義を含めて生徒へ紹介 ③継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ①進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内、保護者とともに生徒の進路の検討 ②校内進路HPで随時、進路選択への参考となる情報の提供 ③ポートフォリオの活用、進路を考える上での資料の作成 ④理数工学科においては研修旅行で県外大学の訪問、進学意欲の醸成 ⑤進路補習を継続実施 ⑥就職内定先の企業から課題をいただき生徒に取り組ませる。 ⑦工業科2年生は、3学期にキャリアアドバイザーとの面談を実施し、進路決定への取り組みが円滑に行えるよう支援	B	【職業意識の育成】 ①企業との連携を強化し企業見学会等の事業を積極的に実施 ②アルバイト就業事業の意義を含めて生徒へ紹介 ③継続した資格取得の奨励 【進路指導の徹底】 ①進路ガイダンスへの参加を保護者へも案内、保護者とともに生徒の進路の検討 ②校内進路HPで随時、進路選択への参考となる情報の提供 ③ポートフォリオの活用、進路を考える上での資料の作成 ④理数工学科においては研修旅行で県外大学の訪問、進学意欲の醸成 ⑤進路補習を継続実施 ⑥就職内定先の企業から課題をいただき生徒に取り組ませる。 ⑦工業科2年生は、3学期にキャリアアドバイザーとの面談を実施し、進路決定への取り組みが円滑に行えるよう支援							
		③	【人材育成】 ・企業見学、インターンシップなどの研修における生徒への事前・事後指導の強化 【情報発信】 ・出前授業を北中、湖東中などで実施 ・中学生や地域へ向けて鳥工TEC大会を実施、参加者、見学者も多く盛況 ・学校HPの更新による情報発信が昨年度より改善されたもののまだ途上 【地域との連携】 ・テクノボランティアは掃除などが好評 ・桜ヶ丘グリーンゾーンでは多くの生徒が参加(保護者・職員も含めて約200人) ・地域の行事などへの協力も例年通り実施 【PTA活動の推進】 ・各事業への保護者の参加状況は概ね良好、呼び掛けにまちこみメールなどを利用したが、行事によっては効果薄	【人材育成】 ・企業が求める人材や地域産業の担い手の育成 ・生徒が個性を活かせる企業への就職 【情報発信】 ・「ものづくり」の体験を含めた地域や小学校・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ・各種事業を通じて地域と連携した貢献活動の実施 【PTA活動の推進】 ・本校の教育活動への理解の深化 ・本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り	【人材育成】 ・企業見学、インターンシップ、鳥工版デュアルシステムなど事前事後指導の充実 【情報発信】 ・各事業、学校行事などの情報をHPで発信する回数の増加 ・出前授業の内容の充実 【地域との連携】 ・生徒会などの協力を得ながら、地域に対する積極的なボランティア活動 【PTA活動の推進】 ・まちこみメールでの広報の支援の継続実施 ・PTA活動の深化、科別PTAの内容の充実 ・保護者への生徒指導方針の周知	【人材育成】 ・企業見学、インターンシップなどの各事業を実施 【情報発信】 ①HPの更新も昨年に引き続き、増加傾向 ②出前授業や中学校体験入学など概ね反応は良好 ③学年通信などを1年を通して発行し、学校の見える化を図っている学年あり 【地域との連携】 ①桜ヶ丘グリーンゾーンの清掃活動の保護者、部活動生徒の参加は例年並み ②テクノボランティアは例年通り7月と12月に実施 【PTA活動の推進】 ①各事業ごとにまちこみメールを発信 ②各事業の参加者は若干の増減があるものの概ね例年並み ③食育講演会(9月:13名参加)、また、新規見学会(7月、11月:延べ29名参加)を実施	B	【人材育成】 インターンシップなどの各事業ごとに継続指導を行い、生徒への意識の徹底 【情報発信】 ①行事ごとに保護者への参加を促すためHPやまちこみメールの継続活用 ②各行事への出席、タイムリーな記事をHP等で情報発信 【地域との連携】 ①津ノ井地域懇談会、地域文化祭などへの積極的な参加と、地域とのより一層の交流 ②テクノボランティア等の継続実施による地域貢献活動の充実 【PTA活動の推進】 生徒の様子を考慮し、継続できる部分は継続しながらPTA活動の拡大及び内容充実							

注: 5S:整理・整頓・清掃・清潔・順 あさひ:挨拶・作法・人の話を聴く WYSH教育:性に関する教育 ハイパー・QUアンケート:よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート

デュアルシステム:学校の授業と並行して企業で学習するシステム 鳥工TEC:文化祭における各科のもののづくりの紹介 AL:アクティブラーニング

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 「40%程度」 E:目標・方策の見直し [20%程度]